



側脈はあまり目立たない。



左は花、上は果実。

区別のポイント

花卉や萼片は線状長楕円形で、6枚ずつ計12枚ある。葉は輪生状に集まって互生。山地で普通に見られる。

形態 常緑小高木。

分布 本州（宮城県・石川県以西）・四国・九州・沖縄

名前の由来 木全体、特に果実が有毒で「悪しき実」から。

葉 **〈全体〉**長楕円形から狭倒卵形。ちぎると抹香の香りがある。長さ5～10 cm。
〈付き方〉互生だが枝先に集まって付く。
〈葉柄〉0.5～1 cm。
〈基部〉くさび形。
〈葉先〉急に短く尖って鈍端。
〈縁〉全縁。

備考 有毒：アニザチン、イリシン。高密度地域等では、食べる場合あり。

出典 1, 14